

(3) 食で守る

【行動指針】

- ・健康のために正しい食習慣を身に付け、生活習慣病*の予防に努めます。
- ・環境を守り安全・安心な生涯・流通・消費を推進します。

①環境に配慮した食育の推進

取組	○買い過ぎない、作り過ぎない、食べ残さないといった食を大切にする実践に取り組み、生ごみの減量化を推進します。
	○生ゴミを利用した堆肥づくり、廃油石鹸づくりなどの食品廃棄物の有効利用を図ります。

(指標項目) 市民一人当たりのごみの排出量 (単位: kg/年)

1) 目標値と現状値

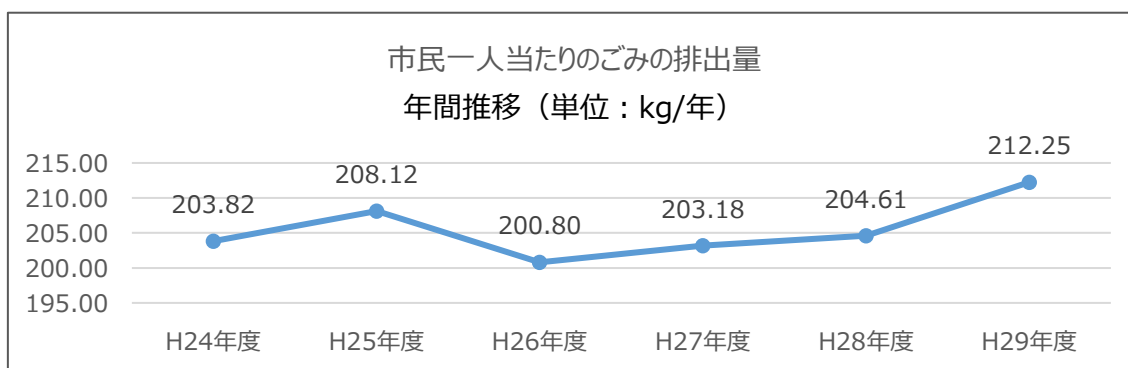
一人当たりのごみの排出量^{※1}は、212.25kg/年と平成26年度から増加傾向にある。

指標項目	策定時	中間評価時	最終目標値
	24年度 ^{※2} (2012年度)	29年度 ^{※2} (2017年度)	35年度 (2023年度)
市民一人当たりのごみの排出量 (単位: kg/年)	203.82 kg	212.25 kg	186 kg

*指標数値：一人当たりごみ排出量算出式 (環境衛生課算出)
家庭ごみ総排出量 (搬入分+収集分÷人口数)

※1 可燃ごみ総量

※2 策定時・中間評価時に把握できた数



2) これまでの主な取組

事業・取組	内容	関係課・ 主な関係機関等
生ごみ処理容器 (コンポスター) 給付事業	循環型社会形成に向けた取組の一環として「生ごみ処理容器 (コンポスター)、害虫駆除剤、発酵促進消臭剤」のセットの給付事業実施。個人負担金で給付。	環境衛生課
農業体験 調理実習	自然の恩恵や感謝の念、理解を深め、食の大切さを伝えるため、保育園・幼稚園・学校等において農業体験や調理実習を実施。	農業振興課等
夏休み！家族で エコクッキング (～H27年度)	家庭生活における、省エネ、ごみ排出減等のライフスタイルについての講演会実施。親子で行う調理実習も行う。	人権・部落差別解消推進課、環境衛生課、社会教育課、健康推進室

3) 課題

- ・生ごみ処理能力向上のため十分な水切りの推進。
- ・食品ロスを減らす。
(生ごみは燃えるごみとして回収されるので、生ごみのみの排出量は測定できない)

4) 今後の取組の方向性

- ・生ごみ処理容器 (コンポスター) の利用啓発。
- ・幼稚園・保育園・学校等において農業体験や調理実習の実施。
- ・生ごみ処理能力向上のため、生ごみを廃棄する際の水切りを十分に行ってもらよう呼びかける。
- ・3010運動*の広報強化。

生ごみ処理容器 (コンポスター)



農業体験の様子



②環境と調和のとれた農林業の推進

取組	○堆肥を活用した土づくりと、農薬や化学肥料を適正に使用した安全で安心できる農作物の生産を推進します。
----	--

(指標項目) 「GAP (ギャップ)」*取組農家数

1) 目標値と現状値

「基礎・普及GAP取組農家数」は、大分県が作った約20項目（普及GAPは約50項目）からなるチェックシートを使い、工程管理に取り組んだ農家数。平成28年度からは使用されていない。そのため、中間評価が行えない。

指標項目	策定時	中間評価時	最終目標値
	24年度 ^{*1} (2012年度)	29年度 ^{*1} (2017年度)	35年度 (2023年度)
基礎・普及GAP 取組農家数 ^{*1}	636戸	/	800戸

*指標項目：農業振興課調べ ^{*1} 策定時・中間評価時に把握できた数

GAPとは

GAPは、Good Agricultural Practiceの頭文字をとった言葉で、直訳すると「よい農業のやり方」という意味ですが、一般的には「農業生産工程管理」と呼ばれている。工程管理というと難しそうですが、言い換えれば「農産物を作る際に適正な手順やモノの管理を行い、食品安全や労働安全、環境保全等を確保する取組」のこと。

よい 農業の やり方
GAP = Good Agricultural Practice

「適正な農業のやり方で生産しよう！」という取組のこと

(出典：農林水産省HP)

2) これまでの取組

事業・取組	内容	関係課・ 主な関係機関等
安全・安心農業推進事業	土壌分析講習会、緑肥栽培研修会、有機農業技術研修会の開催。 菌ちゃんの生ごみリサイクル元気野菜作りの実施。 (～H28年度)	農業振興課
GAP*取得の推進	高品質、安全生産技術の普及定着のためにGAP取得を推進。	農業振興課

3) 課題

- ・GAPの周知不足。

4) 今後の取組の方向性

- ・農業振興課では、現在「標準GAP認証農家数」を把握している。最終目標年に向けて、今後は評価の行える「標準GAP認証農家数」を新たな指標項目とする。

指標項目	策定時	中間評価時	最終目標値
	24年度 ^{※1} (2012年度)	29年度 ^{※1} (2017年度)	35年度 (2023年度)
標準GAP 認証農家数 ^{※2}	参考値 (4戸)	37戸	40戸

*指標項目：農業振興課調べ

※1策定時・中間評価時に把握できた数

※2「標準GAP認証農家数」は、JGAP等の認証を受けた農家数

- ・環境保全型農業直接支払交付金事業*の対象者に対し、GAP研修会等を行い、GAPへの理解を深めてもらうとともに、取得推進につなげる。(H30年度～)

③健康づくりの推進

取組	○「朝ごはんを食べる」「減塩」を推進し、子どもの頃から望ましい食習慣を身に付けられるよう、生涯にわたる一貫した食育*を進めていきます。
----	---

(指標項目①) 「メタボリックシンドローム」*の割合

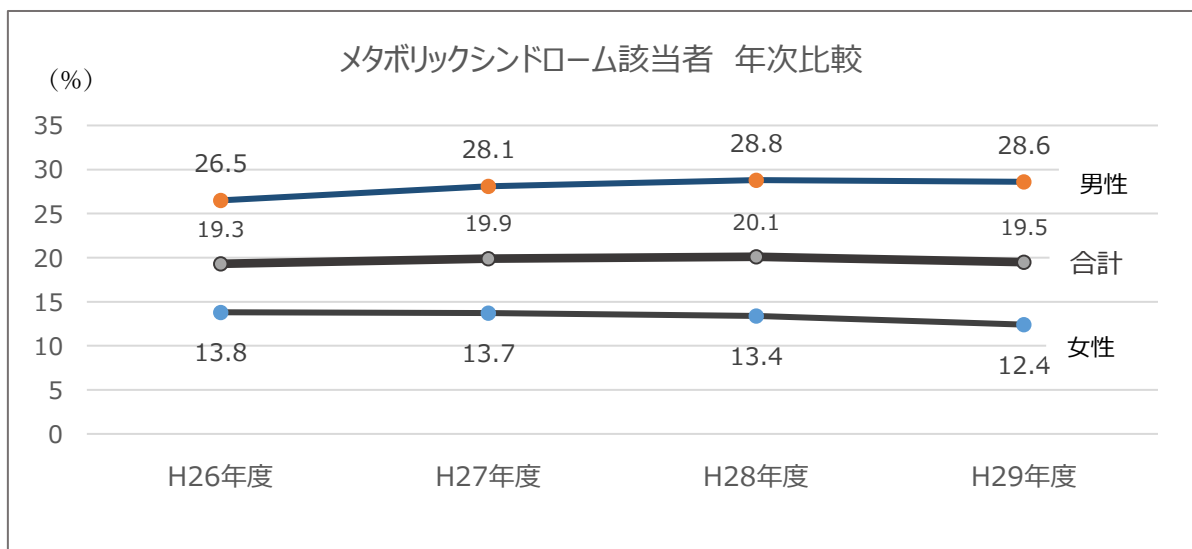
1) 目標値と現状値

「メタボリックシンドローム」の割合は、19.5%で策定時と比較して0.1ポイント減少しているが、平成24年度からほぼ横ばいである。

指標項目	策定時	中間評価時	最終目標値
「メタボリックシンドローム」の割合	24年度 ^{※1} (2012年度)	29年度 ^{※1} (2017年度)	35年度 (2023年度)
	19.6%	19.5%	15.0%

*指標数値：豊後大野市国民健康保険第2期データヘルス計画 第3期特定健康診査等実施計画、国民健康保険 特定健診・特定保健指導実施結果（40～74歳）

※1 策定時・中間評価時に把握できた数



2) これまでの主な取組

事業・取組	内容	関係課・ 主な関係機関等
食育推進事業	市が食推協*に事業を委託。各支部に、予算1万円を上限に料理教室等を実施。	健康推進室、食推協
朝地地区社協ふれあい弁当配布事業	80歳以上の独居の高齢者（介護保険サービス未利用）の自宅を訪問し、バランスのとれたふれあい弁当の配布。	支所市民係
介護予防食生活ふれあい事業（～H29年度）	地域において65歳以上の高齢者とその家族等を対象に伝達講習（栄養学習）を実施。	高齢者福祉課、健康推進室、食推協
両親学級「パパママひろば」	妊婦の食事と将来離乳食を作ることを意識して減塩についての講話を行う。	健康推進室
育児学級「すくすくひろば」	離乳食・だしの取り方の講話と栄養相談、参加者同士の情報交換を実施。乳児と保護者を対象に乳児期からの食の生活習慣づくりの大切さを認識し、保護者とともに考える機会の提供。	健康推進室
1歳6か月・3歳6か月児健康診査	対象者全員に栄養相談、おやつのお食べ方やバランスのよい食事について資料を使って説明を行い、作成したレシピを配付。また、飲料に含まれる砂糖量についても媒体を使用して説明。	健康推進室
生活習慣病*に関する健康教室	糖尿病、高血圧、慢性腎臓病の予防教室、運動教室を実施。生活習慣病予防及び重症化予防を目的に必要な知識を学び、生活習慣を見直す機会の提供。	健康推進室
妊婦・子育て相談	妊婦・乳幼児を対象とした子育て相談日を利用して、市内子育て支援センター・児童館に保健師、栄養士、歯科衛生士が出向いて実施。妊娠期・乳幼児期の親子の食に関する生活習慣の悩みや心配を聞き、個々の生活スタイルにあった健康づくりにつながる食生活がおくれるように指導・助言を実施。	健康推進室、各支所市民係、子育て支援センター、児童館
地域での健康教室	地域からの要請により、老人クラブや自主組織（商工会女性部、男性料理教室、いきいきサロン）等で、生活習慣病予防や介護予防を目的として老人クラブや自主組織等で、食育*の内容を取り入れた健康教室を実施。	健康推進室

事業・取組	内容	関係課・ 主な関係機関等
「地中海w a 食」* 普及啓発 (H29年度)	虚血性心疾患や認知症などの予防に効果があるとされる「地中海食」を豊後大野市の特産を活用したレシピにアレンジした「地中海w a 食」の開発・普及。	豊肥保健所
「減る脂～DASH食」のレシピを開発 (H30年度)	健康寿命に大きく関与する高血圧症の予防効果があるとされる「DASH食」*を豊後大野市版に改変した「減る脂～DASH食」のレシピの開発・普及。	豊肥保健所
あけあじ減る塩大作戦* (H29年度～)	県民健康意識行動調査*から判明した豊後大野市の健康課題である20～39歳男性の肥満率ワースト1位や、塩分摂取量ワースト5位等の課題解決のために、H29年度から豊後大野市が取り組んでいる事業である。H29年度からはこども園保育園保護者、H30年度からは事業所を対象とし、働き盛り世代に向けた食生活改善事業を実施している減塩グッズを活用した市民への減塩の啓発と健康教室の実施。	健康推進室、豊肥保健所

3) 課題

- ・特に男性の該当者が多い。

4) 今後の取組の方向性

- ・メタボリックシンドローム*の該当者率は横ばいしており、さらに現在実施している事業を関係課・関係機関と協働して継続する。
- ・豊後大野市の肥満対策の一つである「あけあじ減る塩大作戦」は働き盛り世代を主な対象としており、今後も継続して事業実施する。

パパママひろばでの栄養講話



あけあじ減る塩教室での試食



地中海Wa食



(指標項目②) ほとんど毎日朝食を食べる人の割合

1) 目標値と現状値

「ほとんど毎日朝食を食べている人」の割合は88.2%で、策定時と比較して3.8ポイント増加している。

対象別では、小学生は93.0%で3.1ポイント増加、中学生は89.3%で7.0ポイント増加、高校生は82.1%で0.7ポイント増加、成人(20～64歳)は84.1%で1.1ポイント増加しているが、目標には達していない。成人を年代別で比較すると、20・30・40歳代で増加しているが、50・60歳代で減少している。

指標項目	対 象	策定時	中間評価時	最終目標値	
		25年度 (2013年度)	30年度 (2018年度)	35年度 (2023年度)	
ほとんど毎日 朝食を食べる 人の割合	全 体	84.4%	88.2%	95.0%	
	参 考 値	小学生	89.9%	93.0%	
		中学生	82.3%	89.3%	
		高校生	81.4%	82.1%	
		成人	83.0%	84.1%	
		20歳代	58.3%	91.2%	
		30歳代	75.0%	77.1%	
		40歳代	77.4%	83.6%	
		50歳代	92.8%	81.0%	
		60歳代	93.9%	91.2%	

*指標数値：小学生、中学生、高校生、成人アンケート

(全体の考え方) 小学生・中学生・高校生・成人のそれぞれの計の平均値

2) これまでの主な取組

事業・取組	内容	関係課・ 主な関係機関等
家庭教育力UPの 5か条* (H24年 度～)	豊後大野市PTA連合会が家庭教育力UPの5か条「朝ごはんをしっかりと食べよう！」の啓発を継続して取り組んでいる。	学校教育課、 豊後大野市PTA 連合会
おうちでトライ	小中学生を対象として、夏休み前に簡単な朝食の作り方を記載した「おうちでトライ」という朝食レシピシートを作成・配布 (H26年度)。また、H30年度は昼食・おやつレシピを追加したレシピシートの作成・配布を実施。子ども自身が料理をすることで食に興味をもってもらうきっかけづくりを目的としている。	学校教育課、 学校給食調理場
地域での学習と実習	「朝ごはんを食べよう」をテーマに学習と実習を通じて食育の推進を実施。	食推協*・愛育会・ 子育て支援センター・健康推進室等
豊後大野市健康づくり計画「健康づくり10か条」*	あけあじ健康21 (豊後大野市健康づくり計画) 健康づくり10か条の行動目標「第1条朝ごはんを食べよう」で、朝ごはんを食べるメリットや必要性の啓発をしている。(健康教室・ケーブルテレビ「みてみて ぶんごおおの便利カレンダー」)	健康推進室
食育セミナー	①高校の文化祭の時に家庭科クラブと協働で、食生活を見直すコーナーを展示。同時に食育SAT*を使用しての食事診断と栄養相談を実施。 ②高校1年生を対象に、授業の一環として食育SATを使用しての食事診断を実施。 ③卒前授業として「魚のおろし方教室」を開催。	豊肥保健所

3) 課題

- ・50～60歳代の朝食摂取率の低下が見られる。

4) 今後の取組の方向性

- ・朝食をほとんど毎日摂取している人は増加傾向にあるので、これまでの取組を継続していく。
- ・50～60歳代は、朝食をほとんど毎日摂取している人が減少しているため、食推協等と協働で働きかけを行う。

「朝ごはんを食べていますか」

年次比較

